

批評

●戀の畫葉書 巖谷小波著

日本橋區本町 博文館

總クロース四六版美本 定價金壹圓

ハートに櫻の模様、華美でもなく澁くもな
くどちらともつかぬ頗上品な凝つた表装で、
中を見ないうちからア、欲しいと思はせる
のは罪な事である。内容は總カウト入り
で、伯林四季、伯林十夜物語、附録として
獨乙奇談といふ面白い記事のほかに、和田
氏の苦心になつた挿繪四枚、粹な獨乙の畫
ハガキ十枚、何れも珍とすべきものである。
さて御本尊の本文は、實はまだ不殘見ない
が、是は云ふ丈け野暮で、其内の一節を一
寸覗いたら最後もう止めやうと思ひながら
も遂に釣込まれて仕かけた用事も其儘二三
十分 あはれ何處迄も罪つくりに出て來てゐ
る書物ではないか。(つくみす)

■丸山晚霞氏は今回入社被度雜誌編輯上其
他協力致さるゝと相成候

□大下氏は毎月上半月を修養の時に當てら
れ居候に付自然旅行等にて不在の事多く、
其間讀者諸君よりの御照會御質問等に對す
る返書は十五日過に可相成候間此儀御含み
置被下度候

□豫て希望の方に頒つべく製版中なりし大
下氏の風景畫帖は漸く出来發賣致候臺紙其
他に多くの費用を要し候爲め低廉に頒つ能
はざるは遺憾に候へども、かくも複雑なる
水彩畫を原畫の趣を損せずして仕上たる勞
苦を思へば比較的廉なるものと存候

□印刷と申せば同し泰錦堂にて印刷せし水
彩繪葉書(東西社發行)は靜物三種風景三種
何れも一種の力ある描法にて大膽なる設色
を試みられしものに付諸君に御勧め致すべ
き價值あるものと存候

□来る三月頃出すべき『みつゑ臨時増刊に
掲出すべき畫稿(圖の大小を問はず)募集致
候』切は二月十五日限り優れたるものは石
版刷に可致候

□會員組織御賛成の方は(直接購讀者にあ
らずとも)一應御住所御姓名をはがきにて
御知らせ置被下度候

□日本橋 加藤重子君より本誌編輯費の内
へ金壹圓五十錢御送り被下候

謝告

○口繪の Powell 氏海の圖は三宅氏も申さ
るゝ通り原圖は精密なるものにて到底小石
版面に其万一も寫し得べくは候はれど輪廓
並に色の配置は粗は覗ひ得べしと存候

○本號には猶一枚の石版刷を挿入すべき豫
定なりしも印刷の時期年末に逼り間に合不
申不得止次號へ廻し申候

○眞野氏の遠近法も木版彫刻の都合上同じ
く次號掲出のものと相成候

○其上本號挿入の寫眞版、何れも焼方強か
りし爲め大不出來なりしは返すゝも遺憾
に存候是等は追々改良可致候

近事雜聞

△太平洋畫會は来る三月三十日より四月二
十九日迄上野五號館にて展覽會を開くとに
決定したり猶本年は水彩畫のみの室を設け
て鑑別を嚴にし優秀なる作のみを集むる方
針にて委員はそれ／＼準備中なりといふ

△業務の餘暇に水彩畫を學べんとする人の
爲めに開かるゝ全講習所は別項廣告欄にあ
る通りいよ／＼来る十四日、授業を開始さ
るゝ筈にて當分の内は極初學者の者にも入學
を許す方針なりといふ。